

**令和元年度事業報告**  
**平成31年4月1日～令和2年3月31日**

令和元年度（平成31年度）の教育支援活動については、

1. 子どもの教育に関する教育支援事業
2. 子どもの教育に関する教育相談事業
3. 子どもの教育に関する教育研究事業

の3事業を公益性に配慮しつつ実施し、以下の成果を収めた。

不登校児童・生徒の学校復帰支援活動では、「東京大志学園」への通学に加え、家庭訪問等のご家庭へのサポートにも力を入れ、包括的な学校復帰支援活動に取り組んだ。

第11回目を迎えた「環境教育ポスターコンクール」は、応募総数も6,500点を超え、全国から環境について考えさせられる作品が多数寄せられるなど、充実したコンクールとなった。あわせて今年度から実施した「子ども作文コンクール」は、全国および海外から3,000点を超える作品が集まり、環境教育ポスターコンクールと合同で表彰式を開催した。

講演会事業では、昨年度に引き続き、不登校問題に特化した教育シンポジウムを全国で開催し、多くの方に来場いただいた。教員を対象にした講演会においては、現任教員を発表者として招へいし、日頃の実践活動を発表いただくなど充実した内容で実施することができた。これらの内容はホームページ・ラジオ等の媒体を通じて公開するなど、普及啓発に取り組んだ。

「学習心理支援カウンセラー」「ピアアシスタント」の養成では、研修の受講及び講座開講について一層の周知向上を図った結果、多数の受講者が研修を修了した。

乳幼児の指導者への研修では、昨今の保育をめぐる社会的関心が高まる中、多くの方に参加いただき、現場での乳幼児ケアに役立つ研修を実施するとともに、更なる専門性の向上を図るため、「保育士等キャリアアップ研修」を実施することができた。

令和元年度の活動の主な内容は、以下のとおりである。

## **(1) 教育支援事業**

### **ア 不登校児童・生徒の学校復帰に対する支援活動等**

学校に行きづらさを抱えている小中学生を対象として、在籍学校との連携のもと、学校復帰のための教育・支援を本人、または家族も含めて行う場として、「東京大志学園」を全国主要都市 13 箇所（北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県）にて月曜日～金曜日 10:00～17:00（基本ベース）で運営した。

支援者は 456 名で、うち中学 3 年生は 161 名であった。進学指導に力を注いでおり、中学 3 年生 161 名のうち 157 名が高校進学を果たした。

不登校期間の長期化により家族に対する支援は必要性が増しており、保護者向けの勉強会（「親の会」）を開催し、12 の分室で計 59 回実施する等の保護者支援にも力を入れた。

不登校支援レベルを向上させるため、年間 3 回、13 分室全教職員が参加してのスキルアップ研修や事例研修を実施した。

「東京大志学園」の社会的認知を向上させることで、より広くより多くの子ども達を受け入れられるよう、不登校をテーマにしたシンポジウムを全国各地で実施した（(2) 教育相談事業 キ 講演会、進学指導相談会・相談会）

東京大志学園のパンフレットの作成・配布、各分室の活動紹介等をホームページに積極的に掲載等し、モバイル機器からの資料請求等のアクセスを可能とするなど、不登校支援に関する広報の充実・利便性の向上に取り組んだ。

また、教育委員会の依頼により東京大志学園講師による不登校支援に関する研修を実施するなど、行政との連携にも積極的に取り組んだ。

### **定期刊行物の発行**

財団の事業案内（会報・ニュースレター）を年 3 回作成し、教育委員会、保護者等へ配布した。また、不登校支援等に関する内容をテーマにラジオ媒体を通じ、9 月から 10 月、計 3 回提供し、財団の業務紹介に積極的に取り組んだ。

### **イ 自然体験活動**

自然体験キャンプ活動（「親子宿泊体験教室」）を首都圏と関西圏で行い、計 139 名が参加した。実施に際しては、大学教授等の専門家、大学生ボランティアの協力を得た。

プログラムでは、学校復帰への第一歩となるコミュニケーション力の向上や自主性を育み、社会適応力などの育成支援を図った。また、保護者グループカウンセリングを 4 回（計 6 時間）実施し、保護者の精神状態の改善も支援した。

- ①首都圏 令和元年8月22日～24日  
千葉県少年自然の家 参加者数106名
- ②関西圏 令和元年8月21日～23日  
大阪府立少年自然の家 参加者数33名

## **ウ ポスターコンクール等**

### ①第11回環境教育ポスターコンクール

子どもたちが環境について考え、環境を保全するために何ができるかを考える機会となることを目的とした「環境教育ポスターコンクール」を、文部科学省、環境省、各地の教育委員会等の後援を頂いて開催した。

PR活動として、過去の受賞作品を展示したりパンフレットに載せたり、夏休みを活用した子ども向けのポスターの描き方教室等を実施した。

PR活動を行った結果、募集要項を配布した首都圏・関西圏以外の広いエリアからも応募があり、今まで応募のなかった2つの県を含む37都道府県から作品が集まった。

受賞作品は、より多くの方が展示会に足を運ぶような企画を盛り込み、東京、大阪、兵庫で展示会を開催した。

- ①実施期間（募集期間を含む）：4月～3月
- ②応募総数：国内6576点、海外222点、合計6798点
- ③表彰式：11月17日（聖心女子大学ブリット記念ホール）  
文部科学大臣賞、環境大臣賞、ほか
- ④受賞作品展覧会：11月～3月  
東京、大阪、兵庫 計5か所
- ⑤受賞作品等の公開：表彰式及び受賞作品については財団ホームページで公開

### ②第1回子ども作文コンクール

子どもたちの表現力や生きる力を育むことを目的とした「子ども作文コンクール」を、各地の教育委員会等の後援を頂いて開催した。

PR活動としてウェブページを開設する他、首都圏・関西圏の学校や教育委員会、私塾等に募集要項を配布した結果、先生をテーマとする素晴らしい作品が全国および海外の各地から多数集まった。授賞作品の選考に当たっては、大学教授を始めとする複数の有識者による厳正な審査を行い、選定した。

- ①実施期間（募集期間を含む）：4月～11月
- ②応募総数：国内3063点、海外601点、合計3664点
- ③表彰式：11月17日（聖心女子大学ブリット記念ホール）  
第11回環境教育ポスターコンクール表彰式と合同開催

④受賞作品展覧会：11月 東京1か所で実施

⑤受賞作品等の公開：表彰式及び受賞作品については財団ホームページで公開

## **エ 中学校等の進路選択支援事業**

中学校等の進路選択支援事業の実施について検討を進めたが、令和元年度は具体的な事業実施には至らなかった。

## **オ 教育施設設置運営**

鹿児島県で、高等学校通信制等の課程に在学する生徒の学習負担の軽減、教育機会の拡充、学習の効率化等を図るために教育施設を運営し、この施設で学ぶ生徒の教育学習の向上・社会的対応能力の修得への支援活動を行った。

支援者は、1年生39名、2年生80名、3年生66名、計185名であった。(令和2年3月1日時点)

## **カ 海外体験活動**

子ども達への海外体験活動の実施について検討を進めたが、令和元年度は具体的な実施には至らなかった。

## **(2) 教育相談事業**

### **キ 講演会、進学指導相談会・相談会**

子どもの育成発達の根幹をなす家庭教育の在り方や、教育向上を図るため、学校・家庭・地域社会と連携し、保護者・教育関係者を対象としたシンポジウム等を開催した。開催に当たっては、教育委員会や学校等に広く広報を行った。

#### ①不登校中学生保護者のための進学指導相談会・相談会

不登校中学生及びその保護者を対象にした高校進学や学校復帰に関する相談会を、北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県で合計97回開催し、391名が参加した。

#### ②教育シンポジウム

不登校をテーマに教育シンポジウムを全国で開催した。

開催に当たっては財団ディレクター等の有識者・専門家を講師に選定するとともに、不登校を経験した高校生等の体験発表をプログラムに入れるなど、内容の充実に取り組んだ。

開催時期 : 5月～2月

開催場所等 : 全国14か所(札幌、仙台、さいたま、千葉、柏、高田馬場、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、芦屋、福岡、那覇)

計32回開催

対象 : 教育関係者、保護者

参加者 : 1402人

### ③教育関係者を対象にした教育相談会(講演会、研究会)

教員及び教育関係者等を対象とする講演会「先生の学校」を開催した。全国各地の教育現場で様々な工夫・改善に取り組んでいる現任教員を招へいし、子どもの教育改善等をテーマに実施し、外部の教育専門家の講評も組み込むなど、内容を充実して実施した。また、発表内容・資料については、全て財団ホームページにおいて公開し、教育関係者への普及啓発に取り組んだ。

開催日程等 : 令和元年8月7日(東京)

参加対象者 : 教員、教育関係者、大学生

参加者数 : 20人

また、教育シンポジウム等での講演内容は一部、ラジオやインターネット等のいつでも誰でもアクセスできる媒体にのせ、開催後も聴取できるように一般公開を積極的に行った。

ラジオ番組 : 令和元年9月～10月 計3回提供

放送番組名 : 「未来の学校 : ラジオ分室～不登校支援を考える～」

## **ク 人材養成研修**

子どもに対する教育学習支援活動を一層充実させるため、教育実践に活用できる教育的・心理学的知識、スキルに関する「学習心理支援カウンセラー」の研修講座を東京都と兵庫県で実施した。

また、高校生等を対象としたコミュニケーション能力の開発・向上のための研修(ピアアシスタント)を開催した。

### ①学習心理支援カウンセラー養成

実施場所 : 全国2か所(東京都、兵庫県)

内容 : 教育実践に活用できる教育的・心理学的知識、スキルに関する入門・

基礎・実践・専門の各課程研修

受講者数：入門課程（大学生・大学院生）14名、基礎課程（教職員等）34名、  
実践課程（教職員等）26名、専門課程（教員等）0名

## ②ピアアシスタント養成

実施場所：全国15都道府県（北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、  
静岡県、愛知県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県、熊本県、  
鹿児島県） 30か所

内 容：コミュニケーション能力の向上等に関わる基礎・専門の各研修

対 象：高校生

受講者数：基礎課程 1,382名、専門課程 226名

修了者数：基礎課程 677名、専門課程 104名

## **（3）教育研究事業**

### ケ こどもの育ちを考える研究会とシンポジウム

こどもの育ちを考える研究会とシンポジウムの実施について検討を進めたが、令和元年度は具体的な実施には至らなかった。

### コ 乳幼児指導者養成研修

乳幼児の健全な育成を担う指導者を養成するために、専門家の講師等による「乳幼児ケアヘルパー研修講座」を実施した。研修講座修了者には修了認定の資格を付与するとともにフォローアップ研修を実施した。

大阪府、兵庫県から研修実施の認定を受け、「保育士等キャリアアップ研修（幼児教育、障がい児保育、保護者支援・子育て支援）」を実施した。

#### ①乳幼児ケアヘルパー研修講座

開催期間：令和元年7月～12月 計6回

開催場所：兵庫県神戸市

講師等：大学等、医療・福祉等関係機関の各専門家

対象者：現役の保育士、幼稚園教諭、子育て支援に係る者

参加者数：73名

#### フォローアップ講座

開催時期：令和元年6月2日

開催場所：兵庫県神戸市

参加者数：13名

#### ②保育士等キャリアアップ研修

開催期間：令和2年1月～3月 計11回

なお、神戸市及び大阪市で全16回予定だったが新型コロナウイルス感染症への対応で2月及び3月で開催を予定していた5回の研修が中止となった

実施場所：兵庫県神戸市、大阪府大阪市

幼児教育 神戸市1回、大阪市1回

障がい児保育 神戸市2回、大阪市2回

保護者支援・子育て支援 神戸市2回、大阪市3回

講師等：大学等、医療・福祉等関係機関の各専門家

対象者：現役の保育士、幼稚園教諭、子育て支援に係る者

参加者数：合計231名

### **(4) その他目的を達成するために必要な事業**

#### ① **不動産賃貸事業**

クラーク高等学院静岡校、クラーク高等学院さいたま校に対して不動産貸付を行った。

#### ② **寄附金募集**

公益目的事業の拡充のため寄付金募集に取り組んだ。

### **事業報告の附属明細書**

令和元年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条(2)に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。

以上